

養父市の市花・市木について（補足資料）

1 市花公募の際の応募意見（平成17年4月）

- ・ きれいでかわいい
- ・ 日本南西限でみずばしょう祭りなど盛ん
- ・ 有名だから
- ・ 養父市にあっている
- ・ 清らかで凛としたイメージが養父市らしい
- ・ 環境が良好、清らかな水の流れなど自然にも恵まれている
- ・ 「夢見て咲いている」と歌われる
- ・ 花の清らかさと生命力に養父市の永遠の栄を念ずる
- ・ いつまでもきれいな花を咲かせ、水、空気のきれいな養父市への願い
- ・ 自生する珍しい花
- ・ 可憐な花のイメージが養父市に合う、観光面でもアピール可能
- ・ 減少傾向の株も増えてほしい願い
- ・ 山あいにひっそり咲く様はあでやかで控えめ、養父市に合う
- ・ 貴重な自然のもの
- ・ 白い清楚な花が養父市民に合う
- ・ 昭和51年に天然記念物指定
- ・ 広く知られており、親しみやすい
- ・ 日本最南端で自生する貴重な花、大切にしたい、誘客につながる
- ・ 自然、清んだ水、空気の中、凛と落ち着くりりしさ

2 市花選定の理由

市花 **ミズバショウ**（科名：サトイモ科 属名：ミズバショウ属）

自生地の市内大屋町加保は日本南西限に位置し、春4月下旬から5月上旬にかけて白い花を咲かせる。（花卉に見えるのは、仏炎苞で本当の花は中心部の黄色い円柱状の肉穂花序である）環境が良好で、清らかな水の流れのある湿地に恵まれないと育たないので、自然を大切にしていくなまじつくりと清楚で凛としたミズバショウのイメージを永遠につなげていく。

昭和51年、兵庫県指定文化財天然記念物となる。

- ・ 養父市大屋町加保のミズバショウは、1974年（昭和49年）に発見され、花粉分析と放射線炭素年代測定法により、約11,000年前から自生のものと判明した。
- ・ 仏炎苞（ぶつえんほう）とは、花びらが炎の形に見える葉が変形したものの。
- ・ 肉穂花序（にくほっしよ）とは、肉質円柱状で小さな花が多数蜜についたもの。

【参考】 花言葉

「美しい思い出」

「変わらない美しさ」

3 市木公募の際の応募意見（平成17年4月）

- ・ ブナは自然がたくさんある所に生きる、養父市も自然を多く
- ・ 養父市に多くあるから
- ・ 木の実がソバに似て、別名ソバグリと言われ、落葉高木、市内には氷ノ山妙見山に自生、自らの落葉で自然を肥やし、生物の糧をつくる、人の命の源を育む木
- ・ 養父市の山で氷ノ山のシンボルだから
- ・ 氷ノ山周辺に在り、養父市の生命の源がある
- ・ 氷ノ山の天然ブナ林、大切にしたい
- ・ 氷ノ山に原生林があり、動植物が共存できる豊かな市にふさわしい
- ・ 県下最高峰の氷ノ山に植生し、市章にもよくあっている。
- ・ その植生は治山治水に役立っている
- ・ ブナ林の景色がどの季節もすばらしい
- ・ 氷ノ山妙見山に多く生え、市民の心もブナのように清んだものとなってほしい
- ・ 養父市の市章でもある氷ノ山に群生するブナ原生林は大切に保護すべき
- ・ 養父市は兵庫県の屋根、氷ノ山で自生し妙見山では植林活動。落葉樹で自然と共生し、環境にやさしい。
- ・ 落葉高木で残したい森の木
- ・ 人が手を加えない山にある。水、空気がきれいで自然と共存できる養父市に。

4 市木選定の理由

市木 **ブナ**（科名：ブナ科 属名：ブナ属）

自生地は、市内では主に氷ノ山周辺に植生する落葉高木で、冷温帯林を代表する樹種である。自らの落葉が腐葉土となって自然を肥やし、生態系を維持して多用な生物のためになり、人の命の源を育む木である。その保水力から治山治水にも役立ち、自然を守る母なる木として知られており、未来にわたって自然を大切にしていける養父市にふさわしい。市章の図形が氷ノ山をイメージしており、ブナ（ブナ林）も氷ノ山に多く植生して、市章ともよくあっている。